

川口ダム湖畔活性化構想案

～ スマート回廊の発展に向けて ～



目次

1	構想の位置づけ	
	■川口ダム湖畔活性化構想策定の目的	1
	■構想の期間	2
	■構想の目標	2
	■スマート回廊とは	3
2	那賀町の現況把握	
	■概況	4
	■主な施設	4
	■主なイベント	7
3	川口ダム湖畔の現況把握	
	■概況	8
	■主な施設	9
	■主なイベント	10
4	ダム湖利用状況	
	■形態別利用状況	11
	■場所別利用状況	12
	■長安口ダムの利用実態	12
	■ダム湖を活かした地域活性化の実施例	13
5	地域の特性	
	■各地域の特性	15
6	関係者からの提案	
	■スマート回廊地域創造事業推進委員会・実務担当者連絡会	16
	■川口ダム湖畔活用課題解決チーム	16
7	エリア活用の方向性	17
8	基本方針	18
9	構想内容	19
10	スケジュール	24
11	長期展望	25

1 構想の位置づけ

■川口ダム湖畔活性化構想策定の目的

徳島県企業局では、現在、川口ダムをはじめとする県内4カ所で、水力発電事業を運営しています。電気事業の運営には、事業に対する水源地域の方々の理解と協力が不可欠であり、過疎化が深刻化する水源地域に対し、地域貢献を図る必要があります。

那賀川水系における水力発電量は、企業局の約80%以上を占め、発電事業の要となっており、企業局では、平成24年度から、那賀町をはじめとしたダムの水源地域において、公有林化を促進し、森林管理が適切に行われるために、企業局森づくり支援事業を実施しています。

平成28年7月には、発電と環境との関わりや、科学技術における一歩先の未来への関心を高め、自然エネルギー普及啓発促進と次代の技術者育成に寄与するため、「川口ダム自然エネルギーミュージアム（川口エネ・ミュー）」を開設するとともに、川口ダム湖を中心とした地域一帯を自然エネルギー学習とにぎわい創出のエリア「スマート回廊」と位置づけ、回廊及び回廊周辺地域発の「地方創生」を進めてまいりました。

これまで、

- ・自然エネルギー等科学技術の普及啓発
- ・スマート回廊周辺地域の周遊
- ・東京五輪キャンプ地誘致を見据えたカヌー艇庫等拠点支援整備 等

川口エネ・ミューを中心として、町や関係団体・企業と連携し取り組んできたところです。

今回、那賀町における「ドイツカヌー代表チーム」の「東京2020オリンピック事前キャンプ」実施が決定し、地元の機運も高まっており、親水護岸の再整備をはじめ、カヌーレガシーの継承が強く望まれています。

また、自然エネルギーの重要性はますます増しており、自然エネルギーの普及・啓発のためには、地域と密着した施策の推進が必要となってきます。

本構想は、スマート回廊の中核をなす川口ダム湖畔において、局有地を活用し、湖面を利用した様々なスポーツに親しむことのできる環境を創出するとともに、周辺施設と連携した自然エネルギー学習・人材育成や県内・県外の方々をひきつけるイベント開催等を推進することによって、スマート回廊を進化・発展させ、スマート回廊、ひいては那賀町全域における、さらなるにぎわい創出・地方創生につなげることを目指すものです。

■構想の期間

令和元年度から5年間

■構想の目標（10年後）

将来像

- 人々が集いにぎわう湖畔 → カヌー・SUP 活用
ニューツーリズムの創出
- 自然エネ・環境学習による啓発 → 人材育成推進
- 広域連携による誘客の拡充 → 観光交流人口の拡大

目標（2028）

新たな体験型ツアーの創出
5 ツアー
(2017 -)

エネ・ミュー体験者数
20,000 人
(2017 17,370 人)

那賀町観光交流人口
延べ 350,000 人
(2017 延べ 305,887 人)



■スマート回廊とは

自然エネルギー及び先端技術の普及をテーマとした環境学習施設「川口ダム自然エネルギーミュージアム」を核にダム湖畔と周辺地域を川口ダム湖周辺の自然と自然エネルギーにちなみスマート回廊と名付けました。

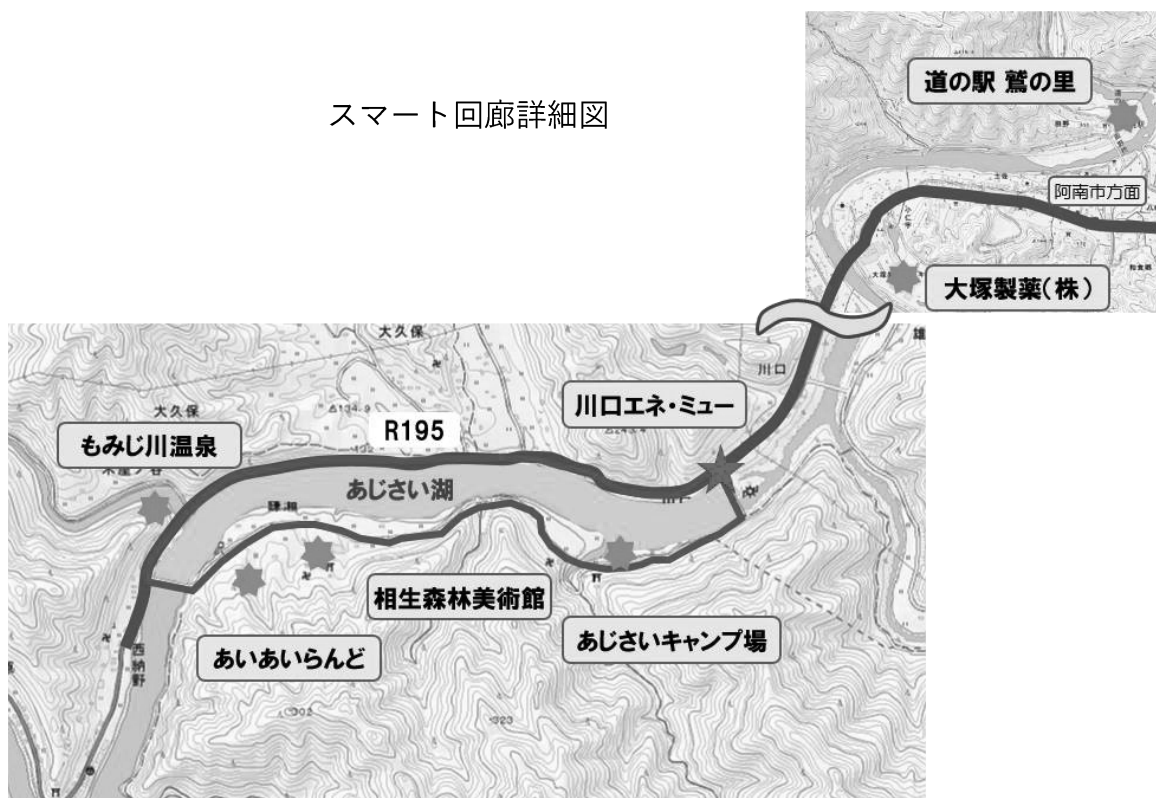


風水光木の回廊

Sunlight Mizu Air Tree
(太陽光) (水) (風) (木)



スマート回廊詳細図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 889 号)
この地図を複製して使用する場合は、国土地理院の長の承認を得る必要があります。

2 那賀町の現況把握

那賀町全体の現況特性については次のとおりです。

■概況



那賀町は、徳島県の南部に位置し、東は阿南市、西は高知県、南は海部郡、北は勝浦郡、神山町、美馬市、三好市に隣接しています。

地域の北西部には四国山地、南部には海部山脈などを配しており、標高 1,000 メートル以上の山々に囲まれ、地域の 9 割以上が森林の中山間地域です。

地域内には那賀川及び坂州木頭川が流れ、両河川は旧上那賀町内で合流して地域のほぼ中央を西から東に貫流しています。

■主な施設等

鷺敷

名称	概要
① 太龍寺ロープウェイ	四国八十八カ所霊場第二十一番札所太龍寺が建立されている太龍寺山。その麓と山頂を結ぶ全長 2775m、101 人乗りのロープウェイは西日本一の規模。
② 虹の丘公園	三世代交流の場として、児童公園・野球場・高齢者施設・趣味の館等が備えられている。
③ わじき温泉	清流・那賀川が造る景勝「わじきライン」に位置する。お風呂は鉱泉水の湯。
④ 那賀町 鷺敷野外活動センター	景勝「わじきライン」のほとりにある宿泊研修施設。
⑤ わじきライン林間キャンプ村	カヌーやラフティングのメッカ「わじきライン」に臨み、大自然に開かれたレジャーゾーン。バンガローのほか、BBQ 棟も備えている。
⑥ 道の宿 そわか	アットホームで、木のぬくもりを感じる、自然と生きる道の宿。
⑦ 水際公園	那賀川のほとりに約 1.6 ヘクタールの公園が整備され、キャンプやアユ釣り等に利用されている。

相生

名称	概要
① 八面神社農村舞台	1919 年に建築されたもので、徳島県内の農村舞台の中で最大規模。
② 辺川神社農村舞台	多数の襖絵が現存。平成 26 年復活公演を開催。
③ クラブ・コルツ（乗馬）	乗馬体験ができる施設。

※スマート回廊の主な施設については第 3 章に記載する。

上那賀

名称	概要
① 拝宮農村舞台	江戸時代後期の建築と推定される県内で最も古い舞台のひとつで、平成 3 年 6 月に旧上那賀町の有形民俗文化財に指定。
② 川俣農村舞台	建築年代は 1879（明治 12）年で、1937（昭和 12）年、屋根をカヤからトタン葺きに替え。ふすま絵は町指定有形民俗文化財。
③ 長安口ダム	徳島県的那賀川総合開発事業の中核となるもので洪水調節、発電、既得取水の安定化及び河川環境の保全を目的とし、昭和 25 年から建設が始まり、昭和 31 年に完成。平成 19 年 4 月からは国の管理となっている。
④ ビーバー館	長安口ダム資料館。建物が森に囲まれたダムの湖畔にあり、木造であることからビーバーの家を連想させ、子供たちにも親しみやすいことから名付けられた。
⑤ 新四国八十八カ所水崎廻り	那賀川沿いの水崎(みさき)地区に設けられた、ミニ八十八カ所霊場。

木頭

名称	概要
① 歩危峡	秋になると赤松と紅葉の調和が美しく、清らかな川の流れとともに深々とした山中に秘められた明媚な峡谷。
② 高の瀬峡（高の瀬峡紅葉まつり）	剣山国定公園内にある典型的なV字型渓谷。剣山国定公園。四季を通じて色とりどりに織りなす景観は素晴らしく、特に、「もみじ」では四国随一との賞賛の声も高い渓谷。
③ 小見野々ダム	四国最大の高さを誇るコンクリートアーチダム（高さ：62.5m）で下流の蔭平発電所にある最大出力46650kWの水車は、日本でも有数の大容量可動羽根斜流水車。四国電力が管理する発電用ダム。
④ 高の瀬レストハウス 平の里	高の瀬峡レストハウス「平の里」は紅葉が美しく映える時期に営業。剣山スーパー林道沿いにあり、入りくんだ高の瀬峡が一望できる展望スポット。
⑤ CAMP PARK KITO（旧美那川キャンプ場）	平成30年10月5日オープン。グランピング用テント4棟、改修したコテージ2棟、新たに設置したロッジ2棟、浴場、レストランがある。
⑥ 那賀川源流の碑	那賀川源流は木頭北川に定められ、源流碑、源流モニュメントが設置されている。

木沢

名称	概要
① 剣山スーパー林道	1985年（昭和60年）に全面開通したこの林道は、上勝町の起点から木沢地区を抜けて、木頭地区の高の瀬峡まで、全長87.7kmの日本一の林道。最も高いところ（高城山登山口）で標高1525mに達する。
② 大美谷ダム	四国電力が管理する発電用ダムで、下流の広野発電所で発電を行っている。コンクリートアーチダム。
③ 四季美谷温泉	平成13年にリニューアルオープン。源泉100%で、サウナや薬湯も設置されている。
④ 山の家「奥槍戸」	四国随一ともいわれる紅葉の名所にある休憩施設。剣山や次郎笈への登山口が建物のすぐ脇にある。
⑤ 坂州発電所	平成30年3月にリニューアルし、最大出力2500kW、常時出力120kWに出力が上がった水路式発電所。
⑥ ファガスの森「高城」	剣山スーパー林道沿線にある休憩施設。周辺には樹齢数百年のブナを中心とした原生林があり、バンガローやキャンプ場を備えている。
⑦ 大釜の滝	日本の滝百選にも選ばれており、その名のとおり滝壺は15mと深く、大蛇が住むという伝説がある那賀町を代表する滝。
⑧ 坂州農村舞台	国の重要有形民族文化財にも選ばれている農村舞台。

■主なイベント

鷺敷

名称	概要
① わじき縁日七福神めぐり	4月開催。鷺敷地区の寺社にまつられた七福神をめぐる。参加された皆さんには、記念てぬぐい・スタンプ紙等が配付されている。
② なかはげ	節分の夜に現れる鬼・なかはげ。なかはげに扮するのは地元の青年団で、10年前に始めた。
③ エキサイティング・サマー・イン・ワジキ	今が旬の有名アーティストたちが集う真夏のロックコンサート。毎年、全国から多くのファンが詰めかける一大イベント。入場無料。

相生

名称	概要
① 那賀町健康マラソン大会	新春恒例のマラソン大会。全長3kmの「おもとコース」と、全長5kmの「相生茶コース」がある。
② 相生まつり	ステージイベントや打上花火が行われる。中でも筒に火薬をつめた手作りの花火を長い棒の先に取り付け着火する「吹筒花火」は、町の無形民俗文化財にも指定されている。

上那賀

名称	概要
① かみなか納涼祭	上那賀地区における夏の同窓会をテーマに、アメゴのつかみ取りや抽選会、歌謡ショー、花火の打ち上げなどが行われる。
② 上那賀地区産業文化祭	地域の園児、児童、生徒らによる作品展を開催。このほか、芸能発表会や歌謡ショー、農産物等の品評会など。

木頭

名称	概要
① 木頭杉一本乗り大会	古くは木頭杉を搬出するために培われた技「一本乗り」。丸太に乗りバランスをとりながら清流・那賀川を下る伝統の技が競技となった。講習会も実施。
② 木頭おどり	8月14日、和無田八幡神社で、盆踊りの「木頭おどり」を開催。子供から大人までが、踊り明かす。盛大な花火も打ち上げられる。
③ 木頭産業文化祭	農産物品評会や木工教室などの産業祭と、芸能発表会や各種文化作品展の文化祭から成る町民参加型のイベント。11月下旬に行われる。

木沢

名称	概要
① 木沢もみじまつり	10月中旬～11月中旬に剣山スーパー林道周辺で開催。期間中、「剣山スーパー林道酸欠ライブ」や「餅まき」等の各種イベントが行われる。

3 川口ダム湖畔の現況把握

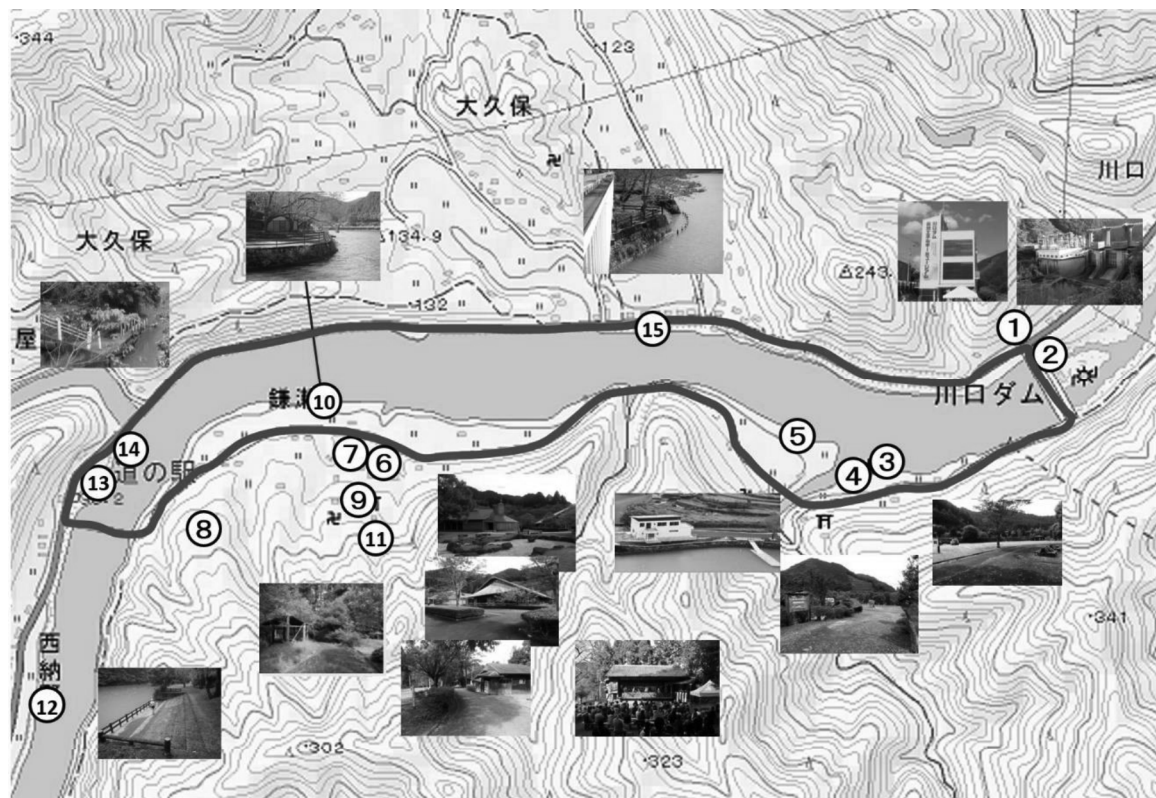
本構想の対象地である川口ダム湖畔周辺の現況特性については次のとおりです。

■概況

川口ダム周辺の地形・地質は、剣山（標高 1,995m）をはじめとする急峻な壮年期の山地を基盤として形成されています。また、那賀川によって V 字型渓谷をつくっており、平坦な土地が少なく、谷間に集落が形成されているのが特徴です。

地質は四万十帯に位置し、主に中生代白亜紀の砂岩及び泥岩が分布しています。

また、川口ダム是那賀川の上流域と中流域の境部にあります。那賀川は、徳島県南部に位置し、その源を徳島県那賀郡の剣山山系ジロウギウ（標高 1,929m）に発し、徳島、高知両県の県境山地の東麓に沿って南下した後、東に流れ、坂州木頭川、赤松川等の支川を合わせ、那賀川平野に出て、派川那賀川を分派し紀伊水道に注ぐ、幹川流路延長 125km、流域面積 874km² の一級河川となっています。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 889 号)
この地図を複製して使用する場合は、国土地理院の長の承認を得る必要があります。

■主な施設等

施 設 名	概 要
① 川口ダム自然エネルギーミュージアム（川口エネ・ミュー）	自然エネルギーやデジタルアート、コミュニケーションロボットや水素燃料電池車などを実際に、見て、触れてもらい、子どもたちが、楽しみながら学ぶことができる。
② 川口ダム （川口発電所）	昭和 36 年竣工の県営ダム。那賀川の上流にある日野谷発電所で発電した水を逆調整するための利水ダムであり、ダム下流の水位変動を緩和するとともに発電を行っている。
③ 川口エネ・ミュー 第 2 駐車場	普通車 25 台が駐車可能。トイレ、ベンチが整備されている。
④ あじさいキャンプ場	オートキャンプ場。バーベキュー等や露天岩風呂、シャワー施設、トイレも完備。
⑤ とくしま・なかカヌーセンター	那賀高校の練習拠点であるシャワールーム等が併設されたカヌーセンター、浮桟橋が整備されている。使用する場合は、那賀町教育委員会への申請が必要。普通車 6 台の駐車が可能。
⑥ 相生森林美術館	全国でもめずらしい”木“の美術館。木を素材とした木彫と木版画を展示。
⑦ 相生ふるさと交流館	町の民俗資料や阿波人形浄瑠璃のでこ人形などの展示や、特産の相生番茶等を原料とした草木染が体験できる。
⑧ 相生森林文化公園あいあいらんど	豊かな森林に囲まれ、園内からはあじさい湖（川口ダム湖）が臨める大自然の中の施設。広大な敷地に宿泊施設や研修室、木工所、BBQ スペースやカフェ等が整備されている。
⑨ 鎌瀬農村舞台	平成 3 年に再建された県内でも新しい農村舞台。
⑩ 親水護岸	那賀高校のカヌー部の旧練習拠点。
⑪ 森林体験エリア	企業局の支援により、町が購入した町有林。
⑫ 親水護岸	もみじ川温泉から日野谷小学校跡地下まで散策路が繋がっている。車での進入が可能。
⑬ もみじ川温泉	平成 27 年 9 月にリニューアルオープン。肌触りの良い良質の温泉、地元食材を使った料理を楽しむことができる。道の駅と合わせて普通車約 70 台が駐車可能。
⑭ 親水護岸	もみじ川の右岸沿いに散策路が続いている。既存スロープ有り。
⑮ 親水護岸	桜が植樹されており、春期には、花見ができる園地。車での進入が可能。

■主なイベント

名 称	概 要
さくらまつり	毎年桜の季節に、もみじ川温泉で開催される春のさくらまつりに、周辺施設も連携し様々なイベントが行われている。夜には桜のライトアップを行うことで川口ダム周辺を PR し、地名度を向上させ、集客の増加をめざしている。 
もみじまつり	毎年紅葉の季節に、もみじ川温泉で開催されるもみじまつりでは、3 0 0 0 発の火花大会が開催される。 
カヌー・SUP 体験	川口ダム湖は水位の変動が少ないため、水上レジャーに適している。カヌー・SUP 体験イベントが行われており、初心者でも気軽に楽しむことができる。また、那賀町の木頭杉を使った SUP 体験もできる。 ※SUP（スタンドアップパドルボード） 水上で専用のサーフボードに立ち、バランスを取りながらパドルを漕ぐスポーツ。  
川口発電所施設見学会	「川口ダム」や「川口発電所」では、エネルギーや環境問題について関心の芽を育んでいくことを目的として、施設見学会を実施している。 
スマート回廊探訪ツアー デイ	マイカー等で対象施設である協賛店舗や施設を巡り、行く先々で優待特典が受けられる「ツアーパス」と、施設・店舗に設置のカードを集めて応募すると抽選で景品があたる「カードラリー」を組み合わせたものである。
那 賀 町 ス マ ー ト 回 廊 SNS フォトコンテスト	スマート回廊周辺で SNS 映えする写真を募集し、入賞者には那賀町の特産品等を贈呈するイベント。スマート回廊周辺及び那賀町全体の魅力の再発見や SNS の拡散効果で賑わいの創出を目指している。

4 ダム湖利用状況

ダム湖の利用実態は、平成 26 年春季から平成 27 年冬季にかけての 1 年間のダム湖利用者総数の推計によると、全国で約 1,233 万人となっています。過去最多であった平成 18 年度の年間利用者数の 1,391 万人と比較して約 158 万人下回る結果となっています。

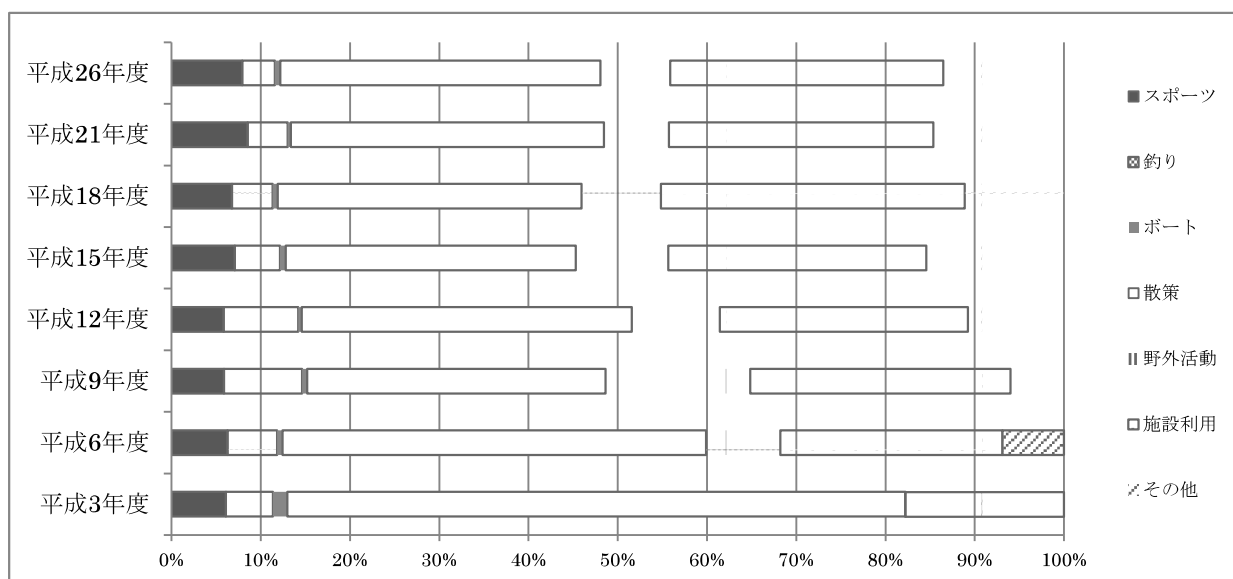
全国のダム湖別年間利用者数の平均は 11 万人となっていますが、ダム湖別の年間利用者数には大きな差異がみられ、年間 190 万人以上の利用者があるダム湖から、年間の利用者が 1 万人以下となるダム湖まで存在しています。

※利用形態、利用場所など、主な利用状況について〔平成 26 年度河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕（ダム湖利用実態調査編）／平成 28 年 2 月国土交通省河川局〕より抜粋

■形態別利用状況

平成 26 年度年間利用者数の推計結果によると、利用形態別では「散策」が最も多く 35.8%を占め、次いで「施設利用」が 30.6%、「その他」が 13.5%、「スポーツ」が 7.9%、キャンプや写真撮影等の「野外活動」が 7.8%、「釣り」が 3.7%となっています。前回までの調査結果をみると、「施設利用」が減少し、「スポーツ」が増加傾向にありましたが、今回の調査結果では、「スポーツ」「釣り」が減少し、「散策」「施設利用」の利用が増加しています。

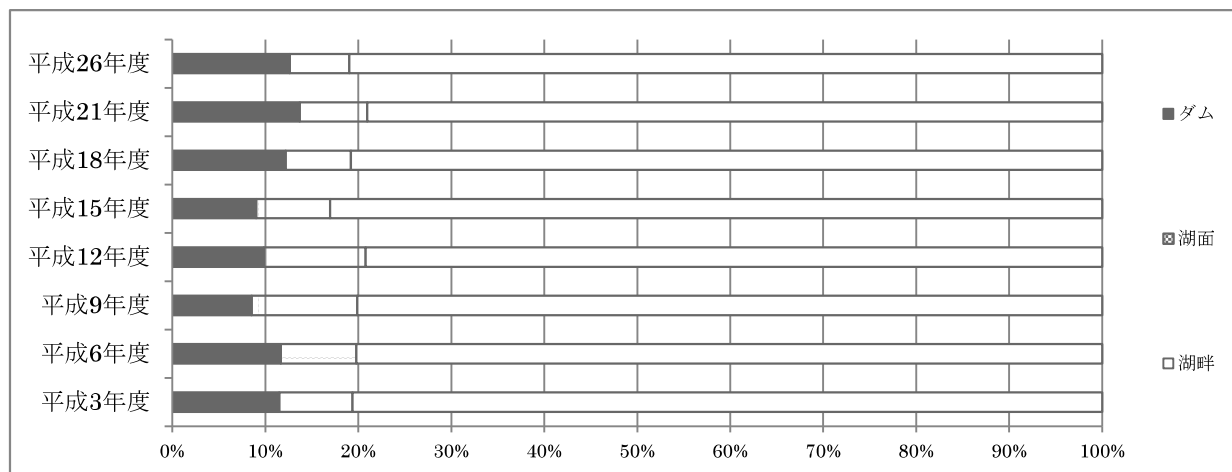
利用形態別年間利用者数の経年変化



■場所別利用状況

平成 26 年度年間利用者数の推計結果によると、利用場所別では「湖畔」が最も多く約 81%を占め、次いで「ダム」が約 13%、「湖面」が 6%となっています。また、前回までの調査結果と比較してみると、利用場所については全体的に大きな変化は見られません。

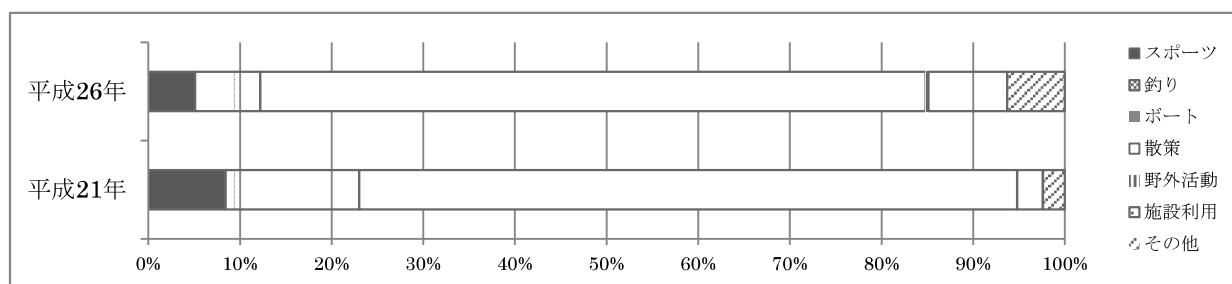
利用場所別年間利用者数の経年変化



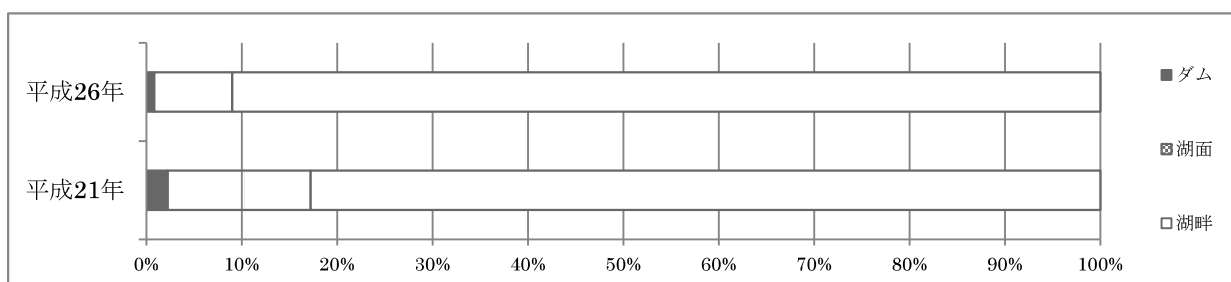
■長安口ダムの利用実態

川口ダムと同じく那賀川を本流とする長安口ダムは、年間利用者数が 24.2 千人で、利用形態は利用率増が「散策」「施設利用」で、利用率減が「スポーツ」「釣り」となっています。利用場所は、利用率増が「湖畔」で、利用率減が「ダム」と「湖面」となっています。

利用形態別年間利用者数の経年変化



利用場所別年間利用者数の経年変化



■ダム湖を活かした地域活性化の実施例 1

○名称

鬼怒川流域ダム（五十里ダム・川俣ダム・川治ダム・湯西川ダム等）

○所在地

栃木県

○取組

1 湯西川ダムでの水陸両用バス導入協議会により、水陸両用バスツアーの実施

水源地域の振興と活性化を図るため、日光市をはじめ関係機関、地域の方々と協働で設置した、水陸両用バス導入協議会により水陸両用バスが運行され、ダム及びダム湖が地域の観光資源として活用されている。



2 森と湖親しむ旬間鬼怒川実行委員会にて、各種イベント実施

日光森林管理署、日光市、（公財）利根川・荒川水源地域対策基金と協力して、森と湖に親しむ旬間」鬼怒川実行委員会を構成し、各種イベントを実施している。

① 上下交流会（7月下旬）

毎年、千葉県と日光市の児童の交流を図るため、「上下流交流会」を実施しています。「上下交流会」ではダム見学、森林教室、魚のつかみ取り等を通して、千葉県と日光市の児童の交流を深めている。



② ダム見学会（7月下旬）

五十里ダム・川俣ダム・川治ダム・湯西川ダムで普段立ち入ることができないダム本体の内部などを開放した見学会を実施している。



③ 男鹿川河川清掃に参加

五十里ダム下流にある川治温泉の自治会が実施している男鹿川河川清掃に参加している。



④ 水生生物調査及び成魚の放流

地元の小学生と一緒に男鹿川での水生生物調査では、専門家の説明を聞きながらきれいな水に住む生物がいるかどうかを調べている。

また、男鹿川に魚が棲みつくように成魚の放流を行っている。



■ダム湖を活かした地域活性化の実施例 2

○名称

沖縄北部ダム（漢那ダム、羽地ダム、福地ダム、大保ダム、金武ダム、安波ダム）

○所在地

沖縄県

○取組

1 沖縄北部ダム湖サミット開催

平成26年2月22日沖縄北部ダム湖サミットを開催。水源地”やんばる”の自然やダム湖の魅力を活かした活動を通じて、森や水の大切さを広く認識してもらうこと、北部地域の連携のみならず中南部との交流・連携を促進するとした、サミット宣言が出された。

2 沖縄北部ダムツーリズムの積極的な展開

ダムやダム湖、流域における観光、エコツーリズムなどの水源地域の魅力ある活動を「沖縄北部ダムツーリズム」として捉え、関係者間の連携を支援するとともに広く発信し、活動の積極的な展開を図るもの。

① 沖縄北部ダムツーリズムにおけるメニュー（主なもの）

ダム管理施設メニュー	NPO 法人等が 実施するメニュー
・ダム堤体内、魚道の見学 ・環境保全対策施設等（マングローブ林、湿地環境）における環境学習・自然観察 ・ダム資料館の見学 ・小学生の川遊び＆川の生き物観察	・ダム湖での自然観察船の運航 ・ダム湖でのカヌー体験 ・ぶながや湖カヌー体験＆大保川清流トレッキング ・森と水辺のノルディックウォーキング ・亜熱帯ジャングルカヌーと川遊び
 	 

② ダムの施設整備

- ・誘客に繋がる植樹（サガリバナ植林）、ダム資料館の改善

③ 旅行業界への売り込み

- ・平成26年10月、ダム現場視察において、日本旅行業界（JATA）沖縄支部メンバーに、ダムと水源地域施設「やんばる学びの森」を紹介。引き続き、水源地域関係者も含めて、JATA メンバーと意見交換会を実施。

④ 日帰りバスツアーを実施

- ・JATA 加盟の旅行会社2社から、漢那ダムの見学を取り入れた4つの企画で日帰りバスツアーが販売。月2～3回実施。ツアーコースには、水源地域の観光施設、飲食店等の利用が含まれる。

内閣府 沖縄総合管理事務局 北部ダム統合管理事務所ホームページより抜粋

5 地域の特徴

企業局の柱石である水力発電事業を担う水源地域がある那賀町においては、川口ダムより下流の驚敷地域も含め、2章で示したような地域での特性を生かした地域活性化が行われています。

今後、水源地域の地方創生を推進する上では、川口ダム湖畔はもとより驚敷地域をはじめ、那賀町その他地域とのさらなる連携した取組が必要です。

構想を策定する上での前提となる各地域の特性は、次のとおりです。

■各地域の特性

川口ダム湖

川口ダム湖では、那賀高校がカヌーの練習場として活用している。とくしま・なかカヌーセンターを新たに整備し、東京 2020 オリンピックに向けたドイツカヌー代表チームのキャンプ実施や、SUP 体験イベントの開催など湖面利用の機運が高まっている。

スマート回廊周辺ではもみじ川温泉、あいあいらんどをはじめ、憩い、宿泊、レジャーの場があり、連携したイベントなども行われている。

また、ダムには水力発電所、ミュージアム、湖畔近傍には新たに森林体験エリアがあり、自然エネルギーや環境学習の場が整っている。

驚敷

毎年夏には全国から多くのアーティストやファンが訪れる「エキサイティング・サマー・イン・ワジキ」が行われている。

また、水際公園、わじきラインキャンプ村など、カヌーやアウトドアが体験できる施設をはじめ、わじき温泉などの宿泊施設がある。

相生

川口ダム湖畔周辺以外の相生地区には各旅館施設があり、新春恒例の「那賀町健康マラソン大会」や、夏には伝統的な「吹筒花火」で有名な「相生まつり」が行われている。

上那賀

長安口ダムは、国直轄により国内最大級の洪水吐きゲート新設工事等が実施されており、インフラツーリズムにより貴重な工事現場等の見学ができる。

また、ダム近傍には、ダムの役割や水力発電の仕組みなどを模型や映像紹介するビーバー館がある。

木頭

木頭では、グランピング TENT を常設したキャンプ場「CAMP PARK KITO」がオープンし、30 万冊を超える世界最大規模の漫画図書館が開設される予定である。また、四国電力の小見野々ダムでは、H30 スマート回廊探訪ツアーデーによる施設見学会が実施された。

木沢

木沢には、紅葉の名所が多く、秋にはもみじまつりが行われ、剣山スーパー林道や四季美谷温泉には多くの観光客が訪れる。また、日本の滝百選にも選ばれている大釜の滝のほか、3 段に流れ落ちる様が豪快な大轟の滝、冬景色が美しいにくぶちの滝など大小様々な滝が存在している。

6 関係者からの提案

■スマート回廊地域創造事業推進委員会・実務担当者連絡会

○スマート回廊地域創造事業推進委員会とは

スマート回廊周辺地域で事業を展開する関係機関とミュージアムが支援を受ける日本科学未来館、町、県、企業局で構成され、スマート回廊を環境学習の場として活用するとともに回廊及び回廊周辺地域を那賀川水系発の「地方創生エリア」として構築していくことを目的としている。

○委員会・実務担当者連絡会の委員等からの要望

- ① 新カヌー艇庫以外にカヌー・SUPの発着場の整備
- ② イベント時の駐車場対策
- ③ ダム湖周辺の観光施設等を掲載したマップの作成
- ④ 第2駐車場とカヌー艇庫の一体的な活用
- ⑤ ダム湖周辺の桜の老齢化対策
- ⑥ 支障木の伐採

■川口ダム湖畔活用課題解決チーム

○川口ダム湖畔活用課題解決チームとは

企業局職員10名のメンバーで結成され、更なるにぎわい創出によって、ダム水源地域の活性化を図るため、川口ダム湖周辺の既存ストックを活用した、親水エリア等でのイベントや整備案の提案として、周辺施設との連携イベントや、湖面を利用したウォータースポーツなどの活用・整備案のピックアップを行うことを目的としている。

○整備内容の提案

- ① カヌー・SUPを川口ダム湖面のメインスポーツとして位置づけ、スロープ設置等によるイベント等での活用
- ② ダム湖畔周遊コースなどを設定するなど、地元温泉が実施している「ランナーズ銭湯」との連携
- ③ ダム湖畔におけるイルミネーションやライトアップ、プロジェクションマッピングを老齢化した桜の植え替えと併せて実施
- ④ 安全対策及び川口ダム湖畔の特色化のための湖面利用ルールづくり

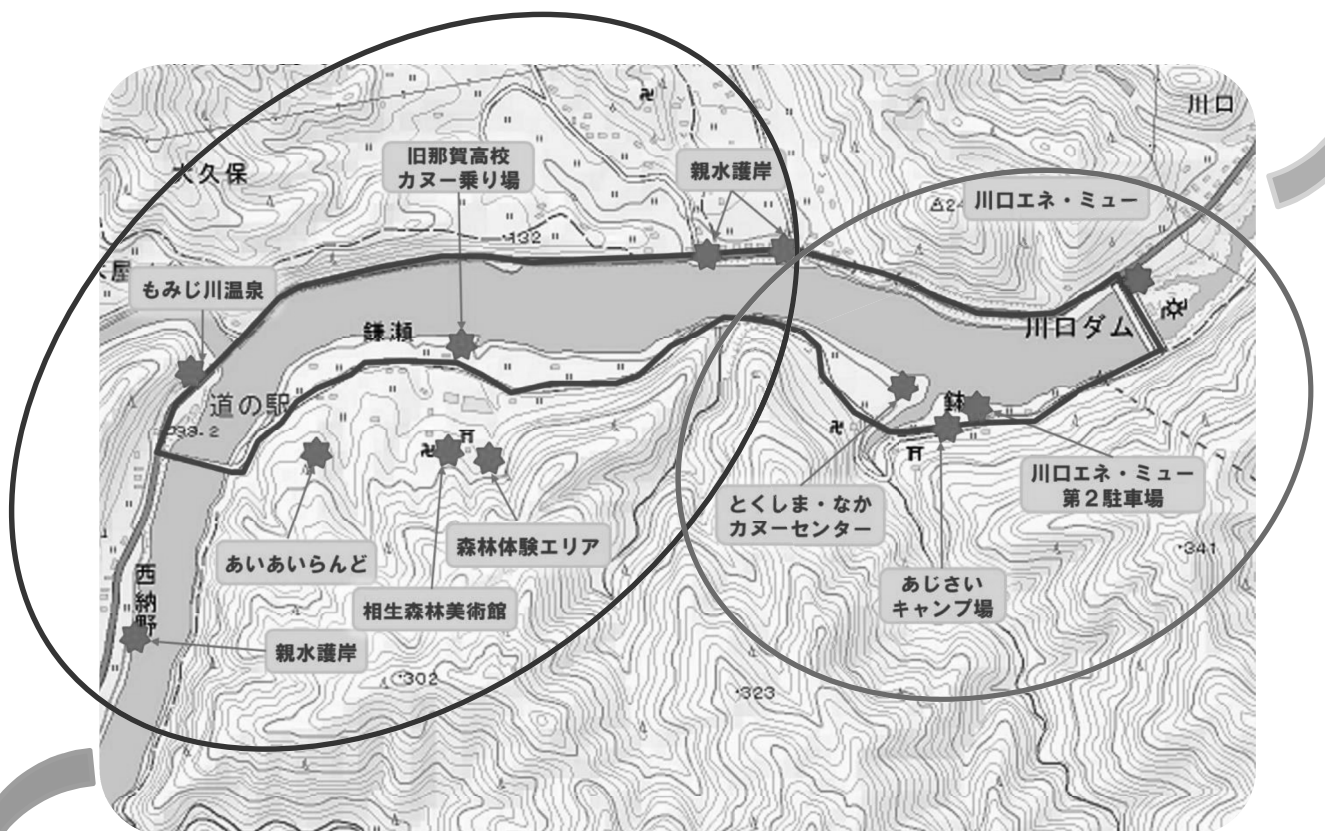
7 エリア活用の方向性

これまでの地域の特性と関係機関の提案をふまえ、対象エリアをつぎのとおり設定し、各エリア活用の方向性を示します。

●レガシーエリア

～スポーツ聖地の新拠点整備～

カヌーレガシーとしてウォータースポーツでにぎわう拠点づくりのため、川口エネ・ミュー第2駐車場の利便性を高めるための整備を行う。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 889 号)
この地図を複製して使用する場合は、国土地理院の長の承認を得る必要があります。

●交流エリア

～ 地域とつながる場 ～

SUP、カヌーイベント体験者の川口ダム湖周遊のための発着場の整備を実施するとともに、他施設と連携し、地域の自然環境を活かした環境学習を推進するなど、多様な交流の創出をめざす。

8 基本方針

これまでの背景と各地域の特性をふまえ、川口ダム湖畔活性化構想の基本方針は次のとおりとします。

理念

自然エネルギーの普及啓発と環境学習を通じた人材育成、
地域資源を活かした交流イベントによって、川口ダム湖畔を中心に
スマート回廊の魅力を高め、那賀地域全体の“にぎわい”を創出する

基本方針

1. ダム湖畔での“にぎわい”創出

川口ダム湖の地域資源と企業局の既存ストックを活かし、それぞれの連携による
“にぎわい”の創出

2. ダム湖畔での人材育成

川口エネ・ミューを核とし、自然エネルギーの普及啓発と環境学習を通じた人材育成の
推進

3. ダム湖畔と他地域との連携

川口ダム湖畔が驚敷地域から上那賀、木頭・木沢地域への中継・連携の役割を担うこと
による、那賀町全域の地方創生へ貢献

将来像

- 人々が集いにぎわう湖畔 → カヌー・SUP 活用
ニューツーリズムの創出
- 自然エネ・
環境学習による啓発 → 人材育成推進
- 広域連携による
誘客の拡充 → 観光交流人口の拡大

目標（2028）
新たな体験型ツアーの創出
5 ツアー
(2017 -)
エネ・ミュー体験者数
20,000 人
(2017 17,370 人)
那賀町観光交流人口
延べ 350,000 人
(2017 延べ 305,887 人)

9 構想内容

基本方針に基づく構想内容は次のとおりとします。

1. ダム湖畔での“にぎわい”創出 ～カヌーレガシーの継承～

レガシーエリア

- カヌー・SUPを中心としたウォータースポーツなど湖面活用の実施
とくしま・なかカヌーセンター等と連携活用

【整備】

湖面活用のための発着場の整備

- ① 川口エネ・ミュー第2駐車場利便性向上のための再整備（企業局）
 - ・カヌー・SUPの活用を図るため、既存護岸を改修しSUP発着場を新設する。
 - ・新たに用地を取得し、レイアウトを見直すとともに駐車場の拡幅を行う。
 - ・ユニバーサルデザインによるトイレ改修。

【運用】

- ① 完成後の湖畔設備を管理運営する団体を公募し、ダム湖運営の一元化を行い、カヌー・SUPのイベント等を実施する。（企業局・町・関連団体）
- ② 誰もが安心して使用できるよう川口ダムを管理する企業局を始め、運営団体、上流の長安口ダムや地元自治体、河川管理者と協議会を立ち上げ、カヌーやSUPを中心とした湖面使用ルールを作成する。（企業局・県土整備部・町等）
- ③ 川口ダム湖畔がドイツカヌー代表チームの東京2020オリンピック事前キャンプ地として選定されたことから、オリ・パラ後のカヌーレガシーを継承するため、那賀町や関係部局等と緊密に連携する。（企業局・県民環境部・町等）



とくしま・なかカヌーセンター
(東京2020オリンピック事前キャンプ施設)



SUP 体験イベント

交流エリア

○ダム湖畔の憩い・景観の場の整備

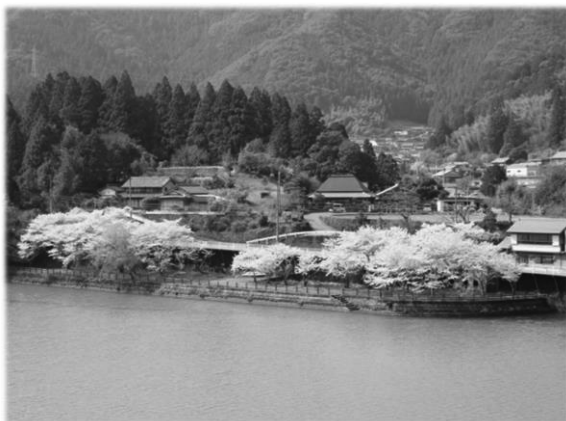
地元観光資源一体となり、多様な活用の推進

【整備】

- ① 景観支障木の伐採と桜の木の植え替え
・ダム湖畔には桜や紫陽花などが数多くあり、ライトアップも行われ、花見等の名所となっていることから、それらの景観を保全するため支障となる木の伐採や桜の木の植え替え等を行い景観保全に努める。(企業局・町)
- ② 既存護岸の再整備による利活用
・もみじ川温泉下のスロープ及びあいあいらんの北側に位置する護岸を改修し、カヌー及びSUP等の発着場として使用する。(企業局)

【運用】

- ① ダム湖周辺マップを作成し、多くの人が四季折々やカヌー・SUPの風景を楽しめるスポットや各施設を紹介する。
(企業局・町・関連団体)
- ② カヌー・SUPによるダム湖の周遊体験だけでなく、他施設の利用も含めたイベントの開催など、地元観光資源と連携し、多様な活用を推進する。
(企業局・町・関連団体)



春の親水護岸



夏の川口湖

2. ダム湖畔での人材育成

～エネ・ミューの森をはじめ、2つのエリアの施設を活用～

○森林体験エリア「エネ・ミューの森」を人材育成のための場として活用

県内小学校等を対象に、あいあいらんどや森林美術館等と連携し、環境学習を推進

【整備】

- ・川口エネ・ミューでバーチャル的に学んだことをエネ・ミューの森で実体験ができるよう、森林の整備を進めるとともに、エネ・ミューの森に隣接した町有地（公園）も活用し、エントランスの整備を行い、パネルやベンチ等を設置し、森林内だけでなく、様々な角度から楽しみながら学べるように整備する。（企業局・町）

○森林学習のためのお絵かきスマートタウンのリニューアル

【整備】

- ・川口エネ・ミューのお絵かきスマートタウンで、森林についてバーチャル的に学べるようにリニューアルを行い、エネ・ミューの森と連携して活用できるようにする。（企業局）

【運用】

- ① 川口エネ・ミューによるエネ・ミューの森の一体的な管理・運営。（企業局）
- ② 自然エネルギーの一つであるバイオマス発電の普及啓発のため、エネ・ミューの森で簡易バイオマス発電機を活用し、森で育った木から薪づくり等を行い、発電体験に使用する。（企業局）
- ③ あいあいらんどや森林美術館と連携し、木工工作や美術品鑑賞などをイベントに活用する。（企業局・農林水産部・町・関連団体）
- ④ 施設見学会や自然エネルギー探検隊事業等と共同で活用する。（企業局・町・関連団体）



森林体験



バイオマス発電

3. ダム湖畔と他地域との連携 ～交流人口拡大～

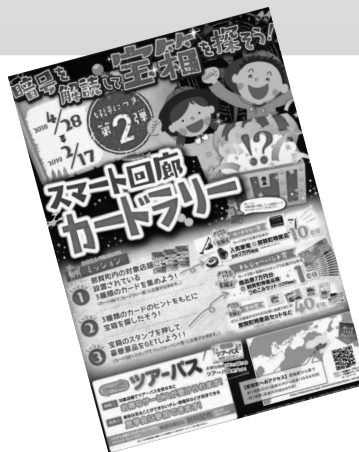
- スマート回廊地域創造事業を中心とした他地域との連携
個々の地域力を活かし、連携することによる人の交流の活性化

2章及び5章で示したとおり、那賀町には川口ダム湖畔以外の地域でも、様々な施設・催しがあり、中には高い集客力のあるイベントも実施されている。各地域の人を引きつける潜在的な力は高く、その魅力を効果的に発信する必要がある。

那賀町全域への集客力を高め交流人口を拡大するためには、各地域の地域資源が有機的に連携し、県内外に魅力を積極的にアピールする取組が重要であり、また県南地域の観光関係団体とも緊密に連携することが必要である。

【施策】

- ① スマート回廊地域創造事業推進委員会（那賀町が事務局）がカヌー・SUP、川口エネ・ミューをはじめダム湖畔の魅力をパンフ等にまとめ情報発信するとともに、他の地域の魅力も効果的にとりまとめ SNS 等で発信することにより、町外、県外への認知度向上を推進する。
- ② 現在実施しているスマート回廊探訪ツアーデイ事業において、那賀町全域で、より集客効果が高まるよう協賛店舗を獲得するなど、既存観光メニューの魅力度アップを図る。



- ③ スマート回廊地域創造事業推進委員会と（一社）四国の右下観光局が協議会等を設置し、県南地域を主体に観光の動線を設定するとともに、カヌー・SUP 体験を含む、新たなツーリズムの創出を進める。
- ④ スマート回廊施設の連携だけでなく、他地域の観光施設等とも連携し、那賀町外も含めた広域的な観光メニューを設定し、那賀町の訴求力を高める。
- ⑤ 那賀町内の小中学校を皮切りに県南そして県内の学校の課外学習の場として、那賀町が利用されるよう県教育委員会、各市町村教育委員会等と連携する。

■整備図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 889 号)
この地図を複製して使用する場合は、国土地理院の長の承認を得る必要があります。

10 スケジュール

基本方針	施策	2019	2020	2021	2022	2023	2028	実施主体
ダム湖畔でのにぎわい創出	川口エネ・ミュー第2駐車場の再整備	設計	工事					企業局
	既存護岸の再整備							企業局
	湖面ルールの作成							企業局・県土整備部・町等
	湖畔設備の一元管理化							企業局・関連団体
	湖畔の景観の整備							企業局・町
	湖畔の一体的活用推進							企業局・町・関連団体
ダム湖畔での人材育成	エネ・ミューの森の整備							企業局・町
	川口エネ・ミューの「お絵かきスマートタウン」リニューアル							企業局
	川口エネ・ミューとエネ・ミューの森において森林環境学習の一体化							企業局
	近隣関係施設と連携し、森林学習の場として活用	整備	運用					企業局・農林水産部・町・関連団体
	エネ・ミューの森を環境学習の場としたツアー等の実施							企業局・町・関連団体
	四国の右下観光局と協議会等の設立及び新たな体験型ツアーの創出	準備	設立					企業局・県民環境部・南部総合県民局・町・関係団体
地域との連携	他地域施設と連携し、広域的な観光メニューの設定	検討	設定					企業局・南部総合県民局・町・関連団体
	課外学習の場として利用されるよう県及び各市町村教育委員会と連携							企業局・教育委員会・町

1 1 長期展望

本構想は、5年間をかけ、スマート回廊の中心となる川口ダム湖畔の整備を実施するとともに、施設の一元管理を図り、施設を活用した魅力ある取組を創出することにより、水源地域及びダム湖畔地域の活性化に努め、もってスマート回廊の発展、那賀町発の地方創生に資することを目指しています。

そのためには、町内各地域の各事業者、那賀町、そして地域全体の協力が必要不可欠であり、また、県南地域に視野を広げた場合、四国の右下観光局とも連携し、地域の魅力を引き出し先導する人材の育成が重要です。

将来こうした協力・連携体制が、那賀町の魅力度を高め、人が集い、その効果が次なる人を誘う好循環を生み出すことを期待するものです。

今回、企業局の既存ストックを再整備し、ダム湖畔の魅力発信と自然エネルギー・環境学習の普及・啓発を進め、スマート回廊や那賀町全域の交流人口の拡大につなげていくこととしています。

○再整備する川口エネ・ミュー第2駐車場とカヌーセンター敷地との一体活用

○ダム湖畔の護岸整備

○スマート回廊やその周辺を来訪・周遊するための交通手段

など長期的に見た場合の課題があります。

それぞれに用地取得や建設費用、河川管理者等との調整、あるいは購入資金、運営・管理費用等検討すべき項目が多くありますが、那賀町等とともに丁寧に検討していくものです。

この構想において、前述したような目標を掲げていますが、こうした目標を達成することにより、水源地域、ダム湖畔を活用したスマート回廊の発展や那賀町のまちづくりに持続的に寄与し、また企業局ならではの地域貢献を推進していきます。



